

1. 科目名 (単位数)	カウンセリング特論 (2 単位)	3. 科目番号	SJMP5333
2. 授業担当教員	戸次 佳子		
4. 授業形態	講義	5. 開講学期	秋期
6. 履修条件・他科目との関係	履修条件は特になし		
7. 講義概要	<p>『カウンセリング』には大きく分けて「医学モデル」に基づくカウンセリング(心理療法)と「成長モデル」に基づくカウンセリングがある。本講義では、医療現場等での治癒を目的としたカウンセリング(心理療法)ではなく、保育・教育の現場で実践できる「成長モデル」に基づいたカウンセリングの基礎を学ぶ。</p> <p>はじめに、人の心のメカニズム、社会と人間、生涯発達臨床心理学など、カウンセリングに必要な基礎知識を学ぶ。次に、それらの知識を生かしたアセスメント(支援対象者理解)と、アセスメントを可能にする包括的な情報の聴き取り、そして、それらの情報をカウンセリングに生かす技術を身につける。</p> <p>本講義のカウンセリングの核は『傾聴』『共感』『受容』であり、その技術をどれだけ高められるかが効果的なカウンセリングにつながる。アセスメントの技術を学んだあとは、『傾聴』『共感』『受容』についてロールプレイやワークを通して学んでいく。</p>		
8. 学習目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 保育・教育現場において効果的なカウンセリングの方法を学ぶ。 2. 心のメカニズム、社会と人間、発達臨床心理学について習得する。 3. 『アセスメント(支援対象者理解)』『傾聴』『共感』『受容』の基本を習得する。 4. 実践に役立てられるセルフマネージメント、セルフコントロールの知識を身につける。 		
9. アサイメント(宿題)及びレポート課題	<ol style="list-style-type: none"> 1. シラバスを確認し、テキストの該当部分を読んでおく。該当部分は授業の中で提示する。 2. 毎時間の振り返りレポートを提出する。 3. 学期末のレポート課題は授業内で提示する。 		
10. 教科書・参考書・教材	<p>【教科書】 大山泰宏『心理カウンセリング序説—心理学的支援法—』NHK出版 馬場禮子・青木紀久代編『保育に生かす心理臨床』ミネルヴァ書房</p> <p>【参考書】 次郎丸睦子・五十嵐一枝・加藤佐千佐子・高橋君江『子どもの発達と保育カウンセリング』金子書房 佐治守夫・飯長喜一郎編『ロジャースクライエント中心療法—カウンセリングの革新を学ぶ—』有斐閣 神原洋一『図解よくわかる発達障害の子どものたち』ナツメ社 田中和代『先生が進める子どものためのリラクゼーション』黎明書房</p>		
11. 成績評価の規準と評定の方法	<p>○成績評価の規準 成長モデルに基づいたカウンセリングの基礎的な知識を習得し、「傾聴」「共感」「理解」について理解する。子どもの発達を理解した上で、適切なカウンセリングの重要性について考えることができる。</p> <p>○評定の方法 授業への積極的参加 60% レポート 40%</p>		
12. 受講生へのメッセージ	<p>本授業では、自分自身を被験者として、人の心の動きについて話し合い、考察を深めることもあります。</p> <p>その際、自らの過去や現在、未来の問題とも向き合うことがあると思います。カウンセリングを習得するにあたって、自己理解は不可欠なものですが、一方で、自分と向き合うことが一時的に苦しくなったときは、講師にその旨を伝えてください。別の課題を個別に実施できるようにいたします。</p> <p>内容の理解や討論の深まりによっては、シラバス通りに進行しない場合がありますのでご了承ください。</p>		
13. オフィスアワー	開始時に提示する		
14. 学習の展開及び内容	【テーマ、学習の目標、学習の内容、キーワード、学習の課題、学習する上でのポイント等】		
1. テーマ	ガイダンス—心理学的支援とカウンセリング—		
	<p>【学習の目標】本講義のガイダンスと心理学的支援について学ぶ。</p> <p>【学習の内容】心理学的支援とは何かを学び、それぞれが本講義を通して特に学びたい『目標』を明確化する。</p> <p>【キーワード】心理学的支援、カウンセリング、心理療法、対人支援、生物—心理—社会モデル</p> <p>【学習の課題】授業内で提示する。</p> <p>【参考文献】大山泰宏『心理カウンセリング序説—心理学的支援法—』NHK出版</p> <p>【学習する上での留意点】自分が感じていることに、本来、正解・不正解はない。にもかかわらず、我々は様々な縛りを自らに課し、“このように感じる”という自分の体感をありのままに感じることにすら難しい。本講義では「他者を理解する」というカウンセリングの難題に取り組んでいくための準備を整える授業である。</p>		
2. テーマ	カウンセリングの基本—傾聴—		
	<p>【学習の目標】カウンセリングの基本である「傾聴」について学ぶ</p> <p>【学習の内容】カウンセリングの基本は相手の話を聴くことである。クライアントが身体レベルから言語レベルまでさまざまな位相で表現することを聴くことの意味を学ぶ。</p> <p>【キーワード】表現の位相、傾聴、身体、共鳴、非言語的コミュニケーション</p> <p>【学習の課題】授業内で提示する。</p> <p>【参考文献】大山泰宏『心理カウンセリング序説—心理学的支援法—』NHK出版</p> <p>【学習する上での留意点】相手の話を「聴く」とはどういうことか、「聴かない」とはどういうことかを実際に体験する。</p>		

3. テー マ	カウンセリングの基本-共感と理解-
	<p>【学習の目標】 カウンセリングの基本である「共感と理解」について学ぶ。</p> <p>【学習の内容】 共感と理解は、カウンセリングにおいて最も大切であると言われている。共感と理解とはどういうものなのか、そして、カウンセリングにおいてどのように作用するのかを学ぶ。</p> <p>【キーワード】 共鳴、共感、共視、ラポール、ロジャーズの3原則、中立性と匿名性、理解、洞察</p> <p>【学習の課題】 授業内で提示する。</p> <p>【参考文献】 大山泰宏『心理カウンセリング序説-心理学的支援法-』NHK出版 長岡千賀・小森正嗣・桑原知子・吉川佐紀子・大山泰宏・渡部幹・畑中千紘(2011)心理臨床初回面接の進行：非言語行動と発話の臨床的意味の分析を通じた予備的研究.社会言語科学,188-197.</p> <p>【学習する上での留意点】 心理臨床初回面接の進行における非言語行動と発話を分析した論文を読む。</p>
4. テー マ	ロジャーズの一般的な理論や技法-来談者中心療法
	<p>【学習の目標】 カウンセリング・心理療法における基本的なセラピストの態度について理解する。</p> <p>【学習の内容】 現在のカウンセリングの基礎をなしているロジャーズの思想の変遷をめぐり、来談者中心療法とは何かを学ぶ。</p> <p>【キーワード】 非支持的療法、来談者中心療法、ロジャーズ、ユング、フロイト</p> <p>【学習の課題】 授業内で提示する。</p> <p>【参考文献】 大山泰宏『心理カウンセリング序説-心理学的支援法-』NHK出版</p> <p>【学習する上での留意点】 精神分析の始まりと展開についても理解する。</p>
5. テー マ	乳幼児期の心の発達-愛着形成-
	<p>【学習の目標】 支援対象者が、生まれてから今日までの育ちの中で経験したことは、元々の気質・器質と重なり合い、その考え方や生き方に様々な影響を及ぼしている。ここでは、人の「心」の発達について考える。</p> <p>【学習の内容】 愛着理論について学び、乳幼児期の愛着形成が、人として生きていく上で重要であることを学ぶ。</p> <p>【キーワード】 ボウルビイ、アタッチメント、エインズワース、ハーロウ</p> <p>【学習の課題】 授業内で提示する。</p> <p>【参考文献】 馬場禮子・青木紀久代編『保育に生かす心理療法』ミネルヴァ書房</p> <p>【学習する上での留意点】 カウンセリングに自己理解は必須である。本授業を通して自分自身を知る機会にすること。</p>
6. テー マ	乳幼児期の心の発達-人間関係の発達-
	<p>【学習の目標】 人との関わり合いの方法を乳幼児がどのように学んでいくのかについて理解する。</p> <p>【学習の内容】 いくつかの模擬事例をもとに、育ちの中の経験・体験が人の考え方や生き方にどのように影響するか考察し話し合う。</p> <p>【キーワード】 対象関係、対人関係、心の理論</p> <p>【学習の課題】 授業内で提示する。</p> <p>【参考文献】 馬場禮子・青木紀久代編『保育に生かす心理療法』ミネルヴァ書房 小林真(2020)『乳幼児の人間関係の発達』富山大学人間発達科学部紀要, 15号1巻, 157-16.</p> <p>【学習する上での留意点】 乳幼児の人間関係の発達に関する論文を読む。</p>
7. テー マ	乳幼児期の心の発達-自我と自己の発達-
	<p>【学習の目標】 生後1歳までの自我発達について学ぶ。</p> <p>【学習の内容】 乳幼児期の心の発達が、心理学的支援に重要な背景となることを理解する。</p> <p>【キーワード】 自我、自己感、ウィニコット、スターン、間主観性</p> <p>【学習の課題】 授業内で提示する。</p> <p>【参考図書】 馬場禮子・青木紀久代編『保育に生かす心理療法』ミネルヴァ書房</p> <p>【学習する上での留意点】 この回では、自我の発達のみならず、幼児期の心の発達について総合的に学ぶ。</p>
8. テー マ	親子関係における臨床的課題
	<p>【学習の目標】 親子関係における子どもの臨床的課題について学ぶ。</p> <p>【学習の内容】 子どもの心理学的支援を行う際、具体的な親子関係を把握することが重要であることを理解する。</p> <p>【キーワード】 母子相互作用、愛着の障害、分離不安、発達障害、虐待</p> <p>【学習の課題】 授業内で提示する。</p> <p>【参考文献】 馬場禮子・青木紀久代編『保育に生かす心理療法』ミネルヴァ書房</p> <p>【学習する上での留意点】 実際の育児相談例を教材として学ぶ。</p>
9. テー マ	子どもの発達障害とカウンセリング
	<p>【学習の目標】 子どもの気になる行動と発達障害について学ぶ。</p> <p>【学習の内容】 子どもの気になる行動に対する具体的な対処法について理解する。</p> <p>【キーワード】 気になる行動、知的障害、身体障害、発達障害、保護者</p> <p>【学習の課題】 授業内で提示する。</p> <p>【参考文献】 馬場禮子・青木紀久代編『保育に生かす心理療法』ミネルヴァ書房 榊原洋一『図解よくわかる発達障害の子どもたち』ナツメ社</p> <p>【学習する上での留意点】 障害とは何かを学び、それぞれの障害に応じて子どもが直面している困難さに気づくことが大切である。</p>
10. テー マ	インテーク面接
	<p>【学習の目標】 面接の始まりと内容、見立てについて、基本的な姿勢を学ぶ。</p> <p>【学習の内容】 心理面接では、何らかの心理的な問題や葛藤を抱えている人が来談をするため、その始まりが重要であることを理解する。</p> <p>【キーワード】 インテーク面接、心理学的理解、アセスメント、見立て、</p> <p>【学習の課題】 授業内で提示する。</p>

	<p>【参考文献】 大山泰宏『心理カウンセリング序説～心理学的支援法～』NHK 出版</p> <p>【学習する上での留意点】 適宜、ロールプレイを通して学ぶ。</p>
11. テー マ	<p>カウンセリングにおける相互作用</p> <p>【学習の目標】 カウンセリングにおけるクライアントとセラピストの相互作用について学ぶ。</p> <p>【学習の内容】 クライアントとセラピストの対話の中で、どのような相互作用が生じているのかに気づく。</p> <p>【キーワード】 相互作用、対話、ナラティブ、介入、解釈、転移 / 逆転移</p> <p>【学習の課題】 授業内で提示する。</p> <p>【参考文献】 大山泰宏『心理カウンセリング序説～心理学的支援法～』NHK 出版</p> <p>【学習する上での留意点】 実際の現場を想像しながら考察し話し合う。自分の心の動きをモニターしながら取り組む。</p>
12. テー マ	<p>カウンセリングのプロセス</p> <p>【学習の目標】 子どもは言語表現が未成熟である。どのように気持ちを聴くのか、また、どのような環境設定や状況であれば、当該児童は話しやすいのか、個々の児童に合わせた聴き方、言語外のメッセージの捉え方、場の設定について学ぶ。</p> <p>【学習の内容】 いくつかの模擬事例をもとに考察を深め話し合う。</p> <p>【キーワード】 言語が未熟な子どもとの対話、聴き方、環境設定</p> <p>【学習の課題】 授業内で提示する。</p> <p>【参考文献】 大山泰宏『心理カウンセリング序説～心理学的支援法～』NHK 出版 田中和代『先生が進める子どものためのリラクゼーション』黎明書房</p> <p>【学習する上での留意点】 リラクゼーションの方法についても学ぶ。</p>
13. テー マ	<p>カウンセリングの場の設定・保護者の気持ちを聴くスキル</p> <p>【学習の目標】 保護者は年齢層から考え方まで幅広い。時には、前任者とのトラブルを抱えた保護者を引き継いだり、行き違いが重なってしまった保護者との関係改善から始めるケースもある。様々な状況に対応し、保護者の気持ちを聴き取り、寄り添うスキルについて学ぶ。</p> <p>【学習の内容】 いくつかの模擬事例をもとに考察を深め話し合う。</p> <p>【キーワード】 関係改善、気持ちの聴き取り方、状況に応じたカウンセリングの場の設定</p> <p>【学習の課題】 授業内で提示する。</p> <p>【参考文献】 馬場禮子・青木紀久代編『保育に生かす心理療法』ミネルヴァ書房</p> <p>【学習する上での留意点】 実際の現場を想像しながら、実現可能なカウンセリングの場の設定、子どもの気持ちの聴き取りについて考察し話し合う。</p>
14. テー マ	<p>カウンセリングの技能を生かした連携・協働 -多職種連携・地域連携-</p> <p>【学習の目標】 連携・協働がスムーズに進むようカウンセリングの技術をどのように生かすかを学ぶ。</p> <p>【学習の内容】 他職種連携が実際にどのように行われているのか具体的な例を探しながら、そこで行われている連携・協働の重要性について理解する。</p> <p>【キーワード】 連携・協働、集団のアセスメント、地域支連携</p> <p>【学習の課題】 授業内で提示する。</p> <p>【参考文献】 大山泰宏『心理カウンセリング序説～心理学的支援法～』NHK 出版</p> <p>【学習する上での留意点】 カウンセリング技能の活かし方と注意点についても考える。</p>
15. テー マ	<p>振り返り -総論-</p> <p>【学習の目標】 自己目標の達成度について話し合う。また、これまでの学習を振り返り、今後の『演習』につながる土台固めを行う。</p> <p>【学習の内容】 授業内容の振り返りに加え、カウンセリングを日常に生かしてみた体験などをシェアし、難しいと感じること、効果を感じたことなど話し合う。また、習得が足りないと思われる内容について補習を行う場合がある。</p> <p>【キーワード】 初回に設定した自己目標、自己の体験、振り返り、総論</p> <p>【学習の課題】 授業内で提示する。</p> <p>【学習する上での留意点】 自己の到達度に意識を向け、今後、さらに実践的に習得したいと思うことを明確化すること。</p>